

巻頭特集
高らかな音色と誇りを持って

港区消防団連合会ラッパ隊

区内の消防団の

関連行事に登場するラッパ隊。

表彰対象者の栄誉をたたえるために

ファンファーレを鳴らすなど

さまざまな場面で活動しています。

日頃の消防団活動に加え、

団員の士気を高めるため

演奏を続ける隊員を紹介します。

市内唯一のラッパ隊 4音の音色を奏でる

名古屋市内では、原則として各区の学区ごとに消防団が置かれています。港区は20学区と、名古屋市で唯一の水上消防団があり、合計21の消防団がボランティアで活動。地域住民の安全・安心な暮らしを支えています。

区内の各消防団に所属する有志で結成されるのが、港区消防団連合会ラッパ隊です。演奏曲は多数ありますが、大きく分けて儀礼の曲と行進の曲の2つに分けることができ、演奏する場、持ち時間に合わせて曲を決めています。「昔は市内の他の消

真ちゆうでつくられたラッパは軽く、片手で持って吹くことが可能。4音を出せるまでには長い練習期間が必要です



隊員の士気を高めるため、ラッパ隊オリジナルTシャツを制作しました

防団でもラッパ隊を結成していたのですが、一時、ラッパ隊が完全になくなったんです。そこで、港区で復活させようと結成したのが始まりです」と、名古屋市港区消防団連合会長の丸井利夫さんは話します。2005年に区内の団員から隊員を募り、結成されました。消防団活動と並行して原則第2・第4日曜日の午前中に練習しています。

「最初はまったく音が出ないので、しっかりと音を出す練習から始めます」と話すのは、港区南陽消防団団長であり、ラッパ隊結成時から活動する隊長の坂野征男さん。

隊員が使うラッパは、ナチュラルトランペットと呼ばれるもの。ト

港区消防団連合会ラッパ隊の皆さん



2015年の「港区ポンプ操法大会」の開会式において、ラッパ演奏しました